



分科会 1 災害時医療と薬剤師 ～明日おこるかもしれない大規模災害に備えて～

10月7日(日) 15:00～17:30 メイン会場(アクトシティ浜松 1F 大ホール)

W-01-01

被災地の震災後の取組み

～地震、津波、原発事故が福島を変えた 東日本大震災と福島第一
原発事故発生後の対応

まちの しん
町野 紳
(社) 福島県薬剤師会

福島県では、昨年3月11日震災発生に加え、福島第一原子力発電所の事故による避難という未曾有の災害となりました。地震津波によって家を失った避難者より原発事故による警戒区域や強制避難区域に指定され避難を余儀なくされた避難者が多く、今も避難生活を余儀なくされているのが実状です。

私の住む会津にも二日後の3月13日から体育館等を中心に一次避難所が開設され、当初、会津若松市を中心に1000～2000人避難者対応から、3月末には会津保健所管内の4000人近くの避難者へと増大し、4月からは避難期間が長期化する観点から、ホテル、旅館等の2次避難所として指定を受け、1万人余りの方々の医療支援を行うことになった。以後、6月末までの百日を超える期間、活動いたしました。

震災発生当初、ガソリン不足、物流不安定、災害物資の提供の遅れ等、様々な条件に加え、放射線という見えない災害もあり、100～300人あまりの人々が避難し、生活した体育館の1次避難所での医療支援や環境管理等の助言などの活動の様子と、次に仮設住宅に入居するまでのホテル、旅館等での2次避難所での医療支援チームの活動を支え、かつ、地域医療を維持しながら、避難者の対応した医療支援の活動を報告します。